

〈中学校 国語〉

国語科学習における自分の思いや考えを
論理的に表現する力を育む指導の工夫
—根拠をもとに美術作品の良さを伝える鑑賞文の指導を通して—



浦添市立 仲西中学校

比嘉 麻衣子

目 次

I	テーマ設定理由	45
II	目指す生徒像	45
III	研究の目標	45
IV	研究仮説	46
1	基本仮説	46
2	作業仮説	46
V	研究構想図	46
VI	研究内容	47
1	国語科における鑑賞文指導	47
2	論理的に書く力	48
3	論理的に書く力を育む学習指導の工夫	49
VII	授業実践	53
1	単元名	53
2	単元の目標	53
3	単元について	53
4	単元の系統性	53
5	指導と評価の計画	54
6	本時の学習	56
VIII	研究の考察	58
1	作業仮説（1）の検証	58
2	作業仮説（2）の検証	61
3	本研究を通して	63
IX	研究の成果と課題	65
1	成果	65
2	課題	65
	おわりに	65
	主な参考・引用文献	66

国語科学習における自分の思いや考えを論理的に表現する力を育む指導の工夫

－ 根拠をもとに美術作品の良さを伝える鑑賞文の指導を通して －

浦添市立仲西中学校 比嘉麻衣子

【要 約】

本研究は、自分の思いや考えを表現する力の育成を目指し、美術作品について鑑賞したことを自分の考えとして根拠を明確にした論理的な文章に表現するための国語科学習の指導法について研究したものである。

キーワード 根拠を示す 鑑賞文 論理的に書く 言語活動 読み合い（交流）
チェックシート

I テーマ設定理由

現代社会の知識基盤化やグローバル化は今後ますます進むと予想され、この急速に変化する社会の中で生きる生徒たちには、自分に必要な情報を選び、読み取り、そこで得た知識や技能を自分の中で組み換え、表現し使っていく力が一層必要とされてくる。

一方で、PISAや全国学力・学習状況調査などの学力調査結果からは「知識・技能の活用など思考力・判断力・表現力」に課題があることがわかっている。それらを受けて学習指導要領では「思考力・判断力・表現力の育成」を柱に、言語活動の充実が提起されるに至った。

教育現場では国語科のみならず各教科や領域において、その内容や特性に応じた言語活動に取り組んでいる。しかし、話し合い活動において自分の考えや意見をうまく説明できず困惑したり、各種表現物が単語や短文、感想のレベルにとどまっていること等生徒の言語力には課題が多く感じられる。

今年度の全国学力・学習状況調査では「目的や意図に応じて資料や文章を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書いたり、伝えたい事柄を明確にして書いたりすること」が本県における国語科の課題の一つとして浮き彫りになった。

本校一年生においても本県三年生の現状と同じく、「書くこと」の領域には課題が多い。今年度6月に生徒に実施した意識調査では約70%の生徒が、「苦手」「面倒臭い」を理由に「書くこと」を嫌いな活動と答えた。各教材の学習終了後に行う小テストの結果では、「書くこと」

の到達率は約44%であり、他の領域と比較すると20%以上低い結果となっている。その原因は、無答率が高いことと、不正解の多さにあると考えられる。なかでも自分の意見を文章に表現させる問いの到達率が低く、不正解の回答を見るとそのほとんどが自己の直感的な感情に終始して意見の根拠が示せていない。この現状は道徳や特別活動、各行事等のワークシート等においてもいえる。

「自己の意見や気持ちを表現する」手立てとして、書く機会を増やしたり、テーマや課題の提示等も工夫してきたが、現状の改善には至っておらず、その指導や実践には更なる改善と長期的な継続の必要性がある。

そこで、本研究では「書くこと」の領域に焦点を絞り、「意見の根拠を示して書かせる」指導の工夫改善に取り組むたい。美術作品の鑑賞文の作成において、自分の意見を作品の特徴を根拠として表現する指導の工夫を図る。国語科学習において根拠を示して書く学習を行うことで、自分の思いや考えを明確にして論理的に表現する力を育むことができるであろうと考え、本テーマを設定した。

II 目指す生徒像

自分の思いや考えを根拠を明確にして論理的に表現できる生徒

III 研究の目標

「鑑賞文を書く」学習において、自分の思いや考えを論理的に表現するための指導を工夫する。

IV 研究仮説

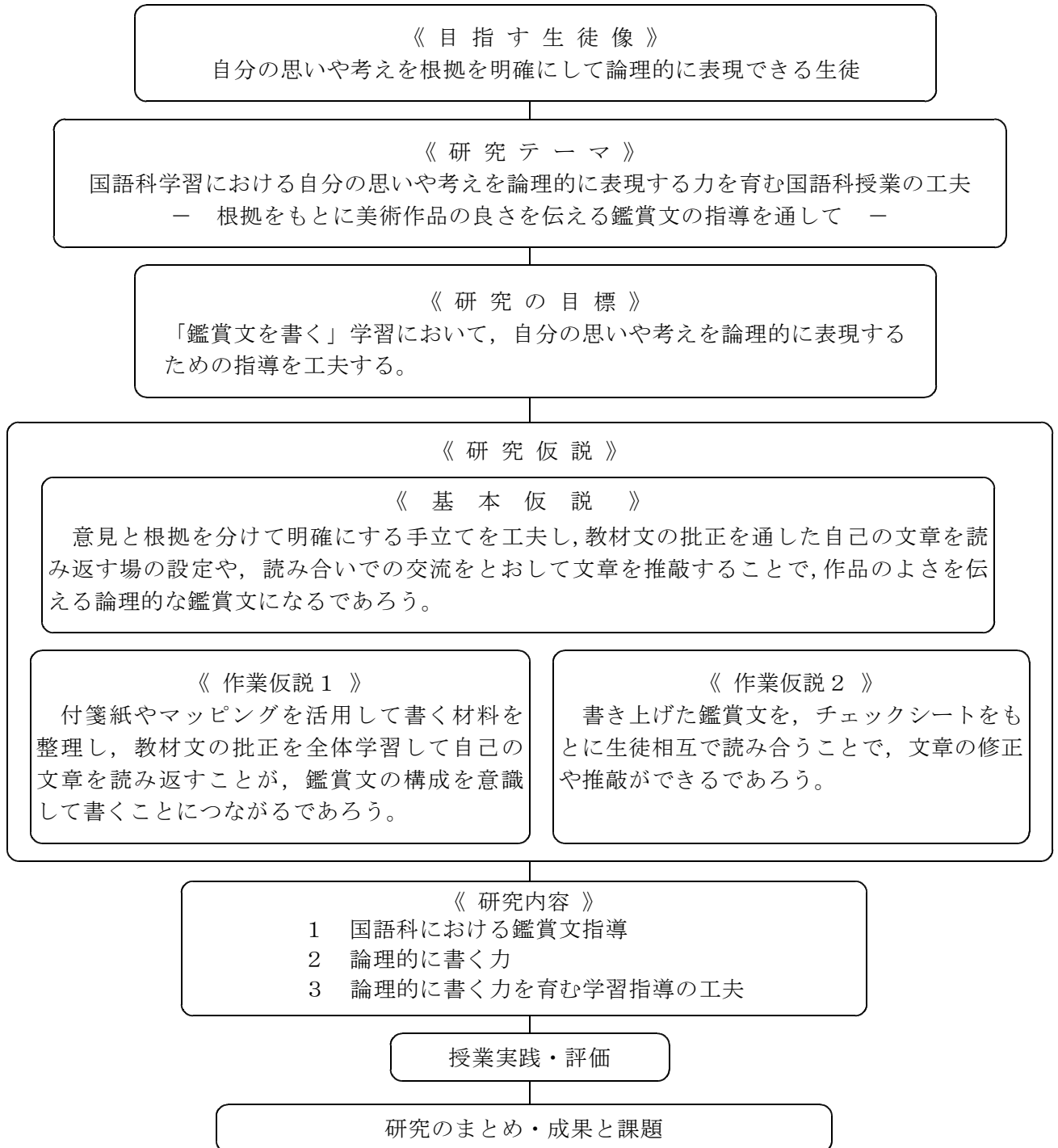
1 基本仮説

意見と根拠を分けて明確にする手立てを工夫し、教材文の批正を通した自己の文章を読み返す場の設定や、読み合いでの交流をとおして文章を推敲することで、作品のよさを伝える論理的な鑑賞文になるであろう。

2 作業仮説

- (1) 付箋紙やマッピングを活用して書く材料を整理し、教材文の批正を全体学習して自己の文章を読み返すことが、鑑賞文の構成を意識して書くことにつながるであろう。
- (2) 書き上げた鑑賞文を、チェックシートをもとに生徒相互で読み合うことで、文章の修正や推敲ができるであろう。

V 研究構想図



VI 研究内容

1 国語科における鑑賞文指導

(1) 鑑賞指導について

学習指導要領「B 書くこと」第1学年の言語活動例アでは、「鑑賞」とは表現のしかた、内包されている意思などについて、多様な角度から光を当てて、そのよさを見極めたり味わったりすることと記されている。また、鑑賞したことを文章に書く時には、対象や素材の表現の仕方、作り手の思いや見方、作品から受けた印象や感動などについて意見や感想を書くことが大切であるとされている。


鑑賞したことを文章にするためには、鑑賞できることが前提となっている。しかし、生徒の持つ鑑賞能力には個人差があり、鑑賞について何らかの指導を講じることが望ましい。鑑賞文が単なる感想文にならないためにも鑑賞指導は必要である。

野口芳宏(2013)は、『「鑑賞指導」とは、その作品が固有に内包している魅力と感化力を十分に理解し、味わう学力を形成する指導である』として、鑑賞指導のための内容理解の深まり、言語技術の体得、人間認識の拡充の必要性を述べている。

これは主に文学作品について述べられたものであるが、文学作品のみならず芸術作品においても同様だと考えられる。鑑賞指導では、書かれている内容を確かに理解させ、豊かに味わわせること、楽しませることが、大切にされなければならない。

そこで本研究では、鑑賞指導として鑑賞の手立てを工夫する(表1)。

表1 三段階の鑑賞の手立て

	学習の場	学習内容
1	教室での授業	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞とは何か ・鑑賞の観点とは何か ・鑑賞文の特徴と書き方(鑑賞文の材料の集め方)
2	【出前授業】 専門家に学ぶ (美術館学芸員)	<ul style="list-style-type: none"> ・美術鑑賞の方法 ・内包される作者の意図などの見方など
3	【校外学習】 県立美術館 鑑賞体験	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞ボランティアと対話を通して作品を鑑賞する ・印象を表現する体験 

第一段階では美術作品の鑑賞について、観点にしたがって鑑賞する方法、鑑賞したことを鑑賞文に表現することについて学ぶ。

第二段階では沖縄県立美術館の学芸員による出前授業を取り入れる。具体的な鑑賞の観点、作り手の思いや見方、対象や素材の表現の仕方などについて学ぶことで作品を多様な角度から鑑賞する力が育まれると考える。

第三段階では実際に県立美術館で鑑賞ボランティアとの対話を通じた鑑賞を行う。作品を前にして「何が見えるか」「何を感じるか」「なぜそう思うか」といった対話を通じた鑑賞体験を取り入れる。

難波広孝(2011)は、論理を「因果関係」、論理力を「因果を捉える力」として述べている。因果とは原因と結果や根拠と主張の関係であり、論理力とはなぜかを考える力とされる。子どもたちがあらゆることについて深く「なぜか」と問いかける論理力を育てることが重要であるとした。

生徒に論理力を持たせて美術作品を鑑賞させるために、鑑賞ボランティアとの対話を通じた鑑賞は有効であると考えられる。

(2) 言語活動としての鑑賞文

これまでの国語授業において、鑑賞したことを文章に書く指導は、詩歌などの文学作品を読むことと関連させることが多かった。

しかし、学習指導要領「書くこと」の言語活動例に「関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと」が例示されたことで、鑑賞する材料や対象、目的等に広がりが生じた。学習指導要領の「芸術的な作品」とは、絵画や音楽、彫刻や建築物など幅広く考えることができる。


このような鑑賞の指導については、芸術的な作品を主に扱う音楽科や美術科において、指導の充実・改善が図られているが、教科によって指導の重点は異なる。国語科では、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くことに重点が置かれる。

鑑賞文について、河野庸介(2011)は、「鑑賞とは、ある芸術作品について自分の立場からそのよさを味わうことである。意見文が書き手としての自分が出るのに対して、鑑賞文はテキスト

トとする芸術作品に寄り添うものである」と述べている。

これをもとに言語活動としての鑑賞文の目的や内容について整理した(表2)。本研究では美術作品の鑑賞を通して鑑賞したことを読み手に的確に伝えるために構成や記述を工夫し、推敲や交流で表現を磨くことを指導のねらいとする。また、文章を書くことによって鑑賞が深まっていくことも実感させたい。

表2 言語活動としての鑑賞文の目的や内容

目的	作品のよさ(魅力)を相手に伝える	
内容	テキストとする芸術的な作品などのよさ(魅力)について感じ取ったこと	
ポイント ・自分が感じ取った作品のよさ(魅力)を書く。 ・鑑賞する観点から気づいたことを根拠とする		

2 論理的に書く力

(1) 論理的に書くとは

論理的に書くとは、自分の考えを明確に、また相手にわかりやすく伝えるために次の四点に注意して書くことである。

- ① 根拠(理由や具体例)を取り入れる。
- ② 言葉や表現のつながりを意識する。
- ③ 意図的に文章を組み立てる。
- ④ 相手が納得できるような筋道を整える。

本研究では、美術作品の具体的な特徴を根拠に、作品から受けた自分の感想や意見を論理的な文章として書かせる。生徒が論理的に書くための四点を次のとおり手立てを加えて指導する(表3)。

表3 論理的に書くための四点の指導

文章を論理的に書くための4点	鑑賞文作成における4点の指導
①根拠を入れる(理由や具体例)	①作品の具体的特徴を根拠にする
②言葉のつながりを意識する	②つながりを意識させるワークシートの活用
③意図的に文章を組み立てる	③根拠とする特徴を選び順番を考えて文章を組み立てる
④相手を納得させる筋道	④ペアで読み合って推敲する

(2) 論理的な文章の構成

学習指導要領「書くこと」の目標では、小・中学校九年間を通して、「構成」を意識して文章を書くことが挙げられている(表4)。

表4 学習指導要領「書くこと」の目標(抜粋)

小学低学年	簡単な構成を考えて文や文章を書く	構成を意識した指導
小学中学年	段落相互の関係などに注意して文章を書く	
小学高学年	全体の構成の効果を考えて文章を書く	
中学1年	構成を考えた的確に書く	
中学2年	構成を工夫して分かりやすく書く	
中学3年	論理の展開を工夫して書く	

小学校低学年から「簡単な構成を考えて」文章を書き、義務教育終了の中学三年では「論理の展開を工夫」した文章が書けるようになるという指導系統になっている。「書くこと」においては論理的な文章を書くために、児童生徒に常に構成を意識させる指導が求められていると言える。また、学習指導要領の言語活動例には、「書くこと」の文種として「報告」「記録」「説明」「意見」などが具体的に示されている。

中村孝一(2011)は、これらの文章を書かせる教師に求められることは、まずそれぞれの文種の特徴や文章形態をしっかりと把握し、該当する学年の児童生徒に何をどのように書かせるのか指導内容や方法を明確にしてシンプルな文章形式(型)を示して「書き方」を教えることであると述べている。

市毛勝雄(2002)は、論理的な文章とは短く明快で構成の原則を併せ持ち、型や書き方の指導が必要であるとし、作文の授業では「説明文」と言われる実用的な文章の書き方を教える重要性を説いた。また、論理的な文章の基本的な型と各文種への文章構成の応用についても述べている。

市毛の提唱する「はじめ・なか・まとめ・むすび」の文章構成での作文指導は「帰納法」と「演繹法」を組み合わせた文章の型となっており、この型に沿って文章を書く活動が、論理的思考力・表現力を育むことになる。

本研究では、市毛の「はじめ・なか・まとめ

・むすび」の文章構成を鑑賞文の構成の型として取り入れる。実践ではその構成にしたがい段落ごとに内容を決めて鑑賞文の型として生徒に示す。生徒は鑑賞文の型にしたがって書くことで論理的な文章の型を理解することができる。鑑賞文の構成と段落ごとの内容は次に示したものとする（表5）。

表5 鑑賞文の構成と段落ごとの内容

段落	構成	内容
第1段落	はじめ	作品からうける印象
第2段落	なか	印象の根拠①(観点から)
第3段落		印象の根拠②(観点から)
第4段落	まとめ	根拠①と根拠②の共通点 ※印象につながる
第5段落	むすび	自分の意見・主張 作品と自分や沖縄との関わり ※作品のよさ(魅力)でまとめる

3 論理的に書く力を育む学習指導の工夫

(1) 単元構想表

言語活動と指導事項との関連を明確にするために富山哲也(2011)の提唱する単元構想表を作成する。単元構想表の作成によって単元を貫く言語活動と「書くこと」の領域にある指導事項との関連が明確になり、言語活動を通してどの指導事項を重点的に指導するのか整理され、指導の全体像がとらえやすくなる。

本研究では、単元を貫く言語活動を「沖縄を伝える作品を選び、県外の中学生へ向けて作品の魅力伝える文章を書こう」と設定する。重点化する指導は【記述】「伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと」【交流】「書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の用い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にすること」とした(表6)。

表6 単元構想表「書くこと」第1学年

(◎は指導の重点化を表す。『観点別学習状況の評価規準と判定基準』を参考に一部加筆)

言語活動例		(2)ア 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。			
		指導事項(1)	学習活動	評価規準	時
沖縄を伝える作品を選び県外の生徒へ向けて作	ア	【課題設定や取材】 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。	県外の生徒へ沖縄を伝えるために作品を選び、鑑賞の観点をもとにそのよさを考える。	県外の生徒へ沖縄を伝えるために作品を選び、観点をもとにそのよさについて考えている。	1 5
	イ	【構成】 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。	作品の印象と観点の結びつきを考え、観点の中から二つを、作品のよさを伝えるための根拠として選び順番を決め、文章の構成を考える。	作品のよさを自分の考えの根拠として挙げて要素ごとに整理し、段落の役割を考えて文章を構成している。	6
	ウ ◎	【記述】 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。	作品からうけた印象とその根拠を明確に示し、課題条件に従って、表現を工夫して書く。	作品のよさについて、表現の仕方、作り手の思いや見方、受けた印象や感動などを明確に書いている。	6 7 8
	エ ○	【推敲】 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、記述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。	教材文で文章の批正方法を学び批正方針を理解した上で、自分の文章を読み返しわかりやすい文章に修正する。	自分の考えた作品のよさやその根拠が相手に伝わるかどうかを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にしている。	7 8

品の魅力を伝える文章を書こう	<p>【交流】</p> <p>◎ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の使い方、根拠の明確さなどの意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること。</p>	<p>ペアで文章を読み合い、チェックシートやコメントシートをもとに意見の交流を行う。</p>	<p>書いた文章を互いに読み合い、作品のとらえ方や根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりしている。</p>	8 9
	<p>関連する【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】</p> <p>(1) 「イ(ウ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心を持つこと。」</p> <p>(1) 「イ(オ) 比喻や反復などの表現の技法について理解すること。」</p>		<p>作品のよさや魅力を表す語句を集め、文脈に応じて使い分けられている。</p> <p>作品のよさや魅力を書き表すのに、比喻を適切に用いている。</p>	
	<p>【国語への関心・意欲・態度】に関する評価</p>		<p>学習課題に沿って作品を選び、自分の受けた印象や感動を分かりやすく文章に書こうとしている。</p>	

(2) 付箋紙とマッピングの活用

論理的な表現には「根拠を明確に示す」ことが必要である。生徒が論理的に文章を書けない大きな理由は、意見と事実の区別ができず根拠を明確に示せないことにある。これまでに目にした生徒の文章の多くは、意見と事実の区別ができないことであいまいな表現となっていた。

そこで本研究では「鑑賞文を書く」学習において、意見と事実を分けさせる手立てを講じる。美術作品から受けた印象や自己の解釈を意見、作品の特徴を意見の根拠として付箋紙とマッピングを使って分ける方法をとる。

マッピングとは、紙の中央にテーマを書き、連想する言葉を次々にメモして線でつないでいく方法でウェビングなどとも呼ばれる。付箋紙は、意見の書き出しや、情報の整理など話し合い活動などで用いられることがあり、どちらも考えを深めたり、整理する時などに用いる発想方法として知られている。

今回は、生徒が自分の意見とその根拠を分けてそれぞれを明確にするために用いる(図1)。付箋紙には、作品から受ける印象や、作品の解釈を単語で書き出す。マッピングは、生徒が観点ごとに作品の特徴を整理したり、五感で感じた情報を整理するために使用する。マッピング用紙は中央に作品名を書き、二次の段階には鑑賞の観点を書いたものをワークシートとして準備する。

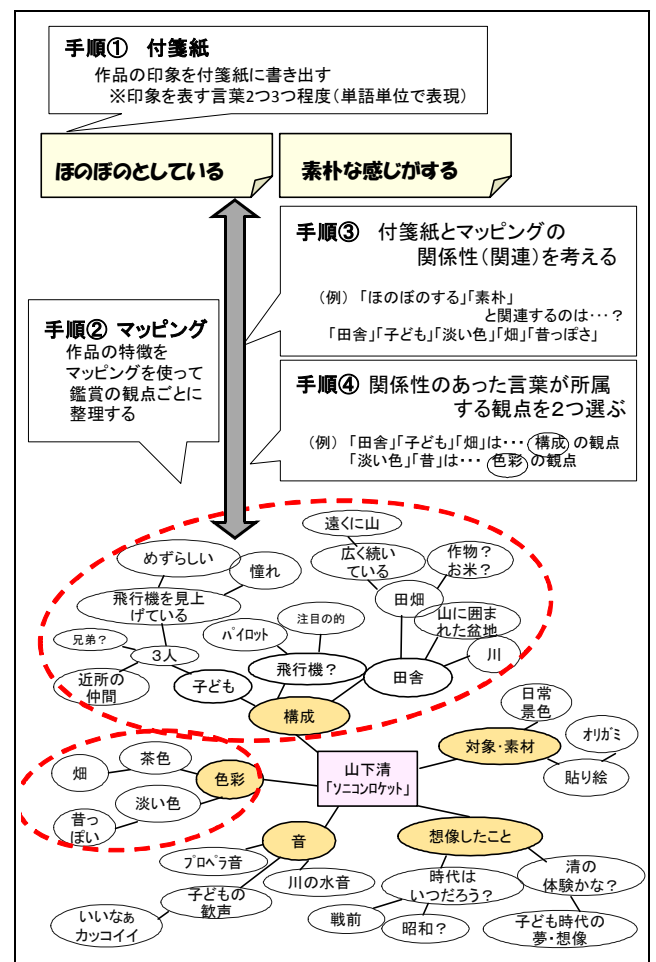


図1 付箋紙とマッピングを活用する手順

以上の手順を踏むことで、付箋紙に書かれた印象(作品に対する自分の意見)と、マッピングで整理した作品の特徴(意見の根拠)とを区別することができ、自分の意見に必要な根拠を


明確にすることができる。と考える。

(3) 付けたい力を意識した課題条件

学習課題を設定し、課題を明確にすることで生徒たちは目的意識、課題意識をもって書くことができる。

今回は実際に美術館で鑑賞を行い、鑑賞文のテーマとする作品を選ぶ際に「県外の中学生に絵を使って沖縄を紹介する」という場面を設定して沖縄を紹介するための作品を選ばせる。また、鑑賞文を書くうえで生徒に付けさせたい記述の力を明確化して段落ごとの課題条件を次のように設定する（表7）。

表7 付けたい力を意識した課題条件

課題の明確化 → 生徒の目的意識の向上		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">【学習課題】 県外の中学生に沖縄を紹介する 作品を選び鑑賞文を書こう</p>  </div>		
段落	内容と課題条件	付けたい力(記述)
第1段落	・印象を比喻を使って言い換える	・気持ちを伝える表現を工夫する力
第2・3段落	・鑑賞の観点に沿った根拠を書く ・2文以上で書く	・事実(作品の特徴)をわかりやすく説明する力 ・必要な分量で調節して記述する力
第4段落	・二つの根拠の共通点を書く ・2文以上で書く	
第5段落	・自分との関わりを書く ・沖縄の話題に触れる ・作品のよさ(魅力)	・段落のつながりを意識してまとめる力 ・自分との関わりでとらえて書く力

(4) 教材文の批正と読み返しの場合

これまで、「書くこと」の指導における文章の推敲は、本人任せか教師の添削、または推敲目的でのグループ交流に終始していた。しかし、本人による推敲は、簡単な語彙や表記の訂正で終わることが多く、推敲前後の文章に大きな差が見られないことが課題であった。また、教師による添削は受け持つ生徒数の多さなどから十分な指導ができず、添削に多くの時間を要するという難点があった。推敲目的の生徒グループ交流は、生徒間の書く能力の差があるため推敲の目的が果たせずに終わっていた。その改善のために生徒の座席を配慮したり、意図的なグループ作成を行ったりと交流以前の準備に時間がかかり、大きな障害となっていた。

そこで、輿水実(1975)の作文の基本的指導過程に学び批正指導を取り入れる。輿水は、批正と推敲の違いについて、推敲は書いた人自身の立場で作品の完成という目線で読み返すことであり、批正とは教師がおこなう、あるいは学級共同でおこなうものであると述べている。

萩中奈緒美(2014)の実践「評価と指導が機能し合う指導過程」では、教材文(生徒の記述の問題点を含んで教師が作成する)を提示し、記述の問題点を批正する活動を取り入れて全体学習を行っている。この全体学習により生徒は記述の問題点に気づき、どう批正するか批正方針や方法も考えた。その後、全体学習での学びを生かし自己の文章を振り返りながら書き進めた。

萩中は、生徒に付けたい力を一人一人に確実に付けていくには、その学習指導過程に「生徒が記述の仕方を見つける段階」「生徒が実際に書く段階」「生徒が自分の記述の問題点に気づく段階」「生徒がもう一度挑戦して記述を成功させる段階」の4段階を位置づけることをすすめている。

そこで本研究においても、教材文を導入グループで批正する活動を取り入れ、批正方法や批正方針を学ばせたい。全体学習をとおして「生徒が自分の記述の問題点に気づく段階」の位置づけを図りたい(図2)。

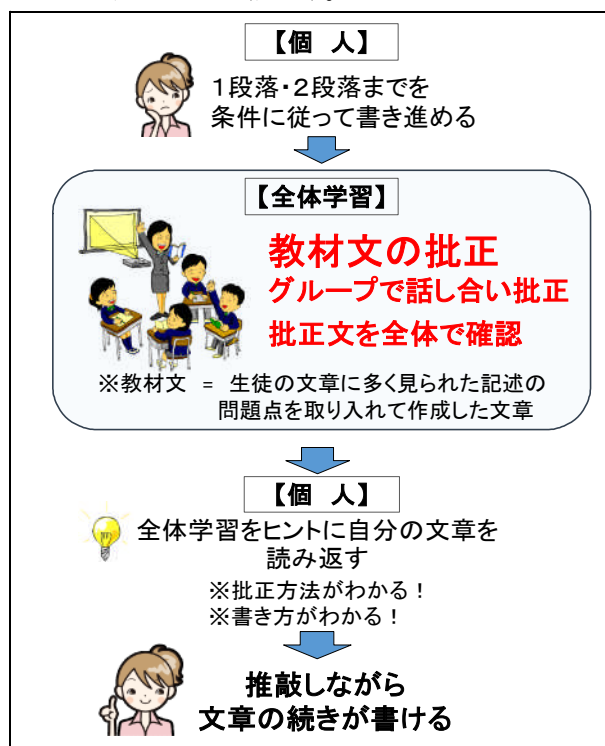


図2 教材文を使った読み返しの場合の設定

(5) チェックシートを使った生徒交流

学習指導要領の改訂内容で注目すべき項目に、「学習過程の明確化」がある。「書くこと」では「課題設定や取材→構成→記述→推敲→交流」の流れが示された。特に、学習の最後に書いたものを互いに読んで学び合う「交流」の場を位置づけ、生徒相互で書いたものをもとに考えを深めたり広めたりする学び合いを図ることが明記されている。

そこで、本研究においても「文章を読み合い、助言し合う」交流の場を指導過程に位置づけ、生徒が書いたものをもとに考えを深めたり、広めたりする「学び合い」の場としたい(図3)。



図3 指導過程における交流の位置づけ

しかし、これまでの実践では生徒間の「学び合う交流」が成り立たないという課題があった。授業後の生徒の声「何を助言していいのかわからない」を原因の一つとして考えた。

佐渡島紗織(2009)は、『中学生には、「書くこと」において、文章を対象化して他者の目から読む力が求められている』とし、書き手自身の「読み返し」と生徒相互の「読み合い」は、いずれも文章を対象化して他者の目から読む作業であると述べている。

また、文章の修正には、表記・語句・文などの表層的な修正と主張・構成・材料などの深層的な修正があり、授業で文章の修正をさせる際には、目指す修正を明確にする必要があることにも触れている。

今回は、全指導過程中に2回の交流の場を設定する。指導計画の第8時に深層的な修正を目的とした第1回目の交流を、第9時では完成した鑑賞文をもとにした美術作品のとらえ方や考え方の交流を行いたい。

第8時の交流において、生徒間で文章の深層的な修正を円滑に進める目的でチェックシートを次のように作成する(表8)。生徒がチェックシートを活用して対話を通じた深層的な修正目的の読み合いができることを目指す。

表8 交流に使用するチェックシート(一部)

鑑賞文を書こう チェックシート		◎アドバイス (△×の項目について、どう改善すると良いか具体的に書きましょう)
組	番 名前	
◎ペアの鑑賞文を、次の項目にしたがってチェックしましょう。(○△×)		
段落	チェックの視点	
1	自分の考えとして作品の印象を書いているか? *特徴でなく気持ちになっているか?	はじめ
2	印象の根拠として鑑賞の観点から二つを述べているか? *二つが混ざったりしていないか?	なか
3	内容が印象の根拠として理由になっているか? *印象の説明にふさわしいか? それぞれの説明が十分か (よくわかるか?言葉が足りていますか?)	
4	「なか①」と「なか②」の共通点がまとめられているか?	まとめ
5	作品と自分との関わりが述べられているか?	むすび
	沖縄の話題に触れてられていますか? 作品のよさや魅力を伝える文章になっているか?	

VII 授業実践

第1学年 国語科学習指導案

平成26年12月11日 3校時
 仲西中学校 1年1組35名
 指導者 比嘉 麻衣子

【年間指導計画 1学年 2月計画 P53】

1 単元名 「沖縄を伝える作品を選び県外の生徒に向けて作品の魅力を伝える鑑賞文を書こう」

2 単元の目標

【関心・意欲・態度】興味を持った作品を選び、観点を決めて作品の魅力を伝える鑑賞文を書く。
 【書くこと】観点を決めて鑑賞し、根拠を明確にして文章の構成を考え、書いた文章を読み合い、自分の思いや作品の魅力を伝える鑑賞文を書く。

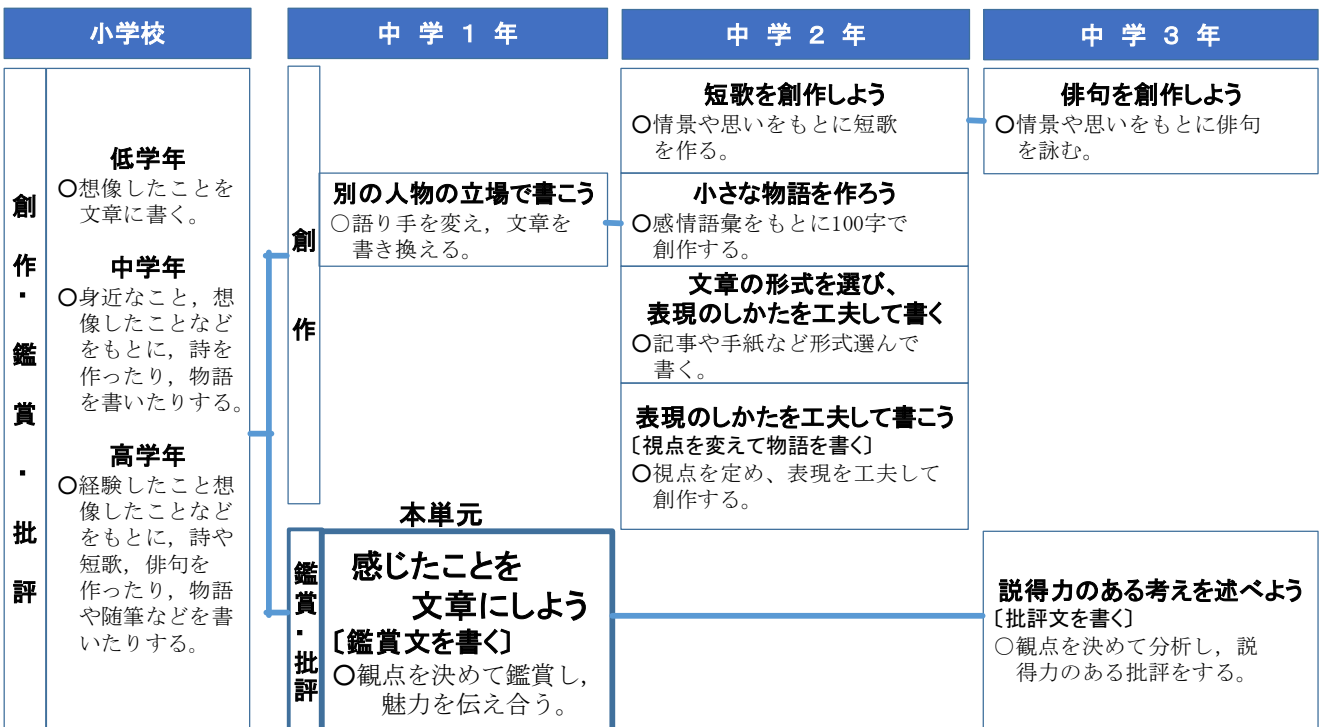
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】作品のよさを語る語彙を増やし、効果的な表現を工夫する。

3 単元について


- (1) 教材観 (省略)
- (2) 生徒観 (省略)
- (3) 指導観 (省略)
- (4) 単元の評価規準 【学習指導要領の内容】書(1)ウ・オ, (2)言語活動例ア, 伝国(1)イ(ウ)・(オ)

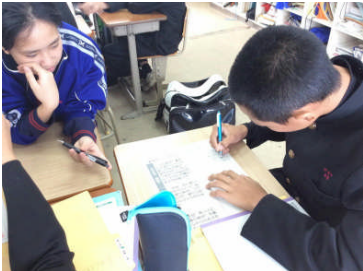
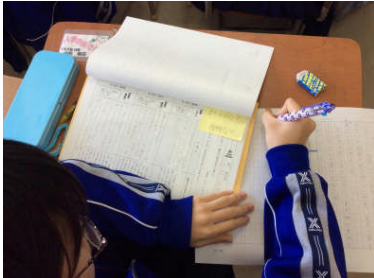

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
① 沖縄を伝える作品を選び、観点を決めて作品の良さを伝える鑑賞文を書こうとしている。	① 観点を決めて作品を鑑賞し、その良さや魅力の根拠をあげて鑑賞文を書いている。(ウ) ② 書いた文章を互いに読み合い、作品のとらえ方や表現について意見を述べたり、自分の表現の参考にしている。(オ)	① 作品の良さや魅力を表す語句を集め、文脈に応じて使い分けている。(イ(ウ)) ② 作品の良さや魅力を書き表すのに、比喩などの表現技法を必要に応じて適切に用いている。(イ(オ))

4 単元の系統性



5 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	ねらい	学習活動	評価規準と評価方法
一	1	◎鑑賞文の特徴を知り観点に沿った鑑賞の方法と鑑賞文の書き方を理解する。	①目標を確認し学習の見通しを持つ。 ②著名作家の絵画作品を見て、作品から受ける印象を話し合う。 ③作品から受ける印象(自分の気持ち)と、作品の特徴(事実)との違いを押さえる。 ④鑑賞文のモデルを提示し、鑑賞文とはどんな文章か理解する。 ⑤鑑賞文を書くための情報集めの方法（付箋紙とマッピングの活用）を理解する。	関 ① 絵画の鑑賞に興味を持ち、鑑賞文を書くための情報集めの方法を理解しようとしている。(行動観察) 書 ① 絵画の印象と、作品の特徴を表す言葉をそれぞれ書き出している。(付箋紙とマッピング)
	2	【出前授業】 ◎絵画作品の鑑賞の観点を理解し、絵画作品の対話を通じた鑑賞を体験する。	①絵画の要素に着目した作品鑑賞の観点を理解する。 ②対話を通じた鑑賞を体験する。  県立美術館学芸員による出前授業	関 ① 鑑賞の観点を理解し、具体的な部分を取り上げ、作品のよさや魅力を挙げている。(行動観察)
二	3	【校外学習】	①鑑賞のテーマを理解する。	関 ① 対話を通して、作品のよさや魅力を多様な視点から鑑賞している。(行動観察) 書 ① テーマに合った作品を選び、観点を決めて鑑賞し、その作品のよさや魅力を適切な語句を用いて書き出している。(ワークシート)
	4 5	沖縄県立美術館 学校招聘事業 「美術館へ行こう2014」へ参加 ◎県外の中学生へ沖縄を伝える作品を選び、観点にしたがって鑑賞する。	テーマ 「県外の中学生へ沖縄を伝える作品を選び、その鑑賞文を書こう」 ②県立美術館のコレクションギャラリーを、鑑賞する。  鑑賞ボランティアと対話をしながら鑑賞 (生徒1グループ6名につき鑑賞ボランティア1名) ③鑑賞文にする作品を決め、自由に鑑賞する。 ④選んだ作品の印象と特徴を、ワークシートにできるだけ詳しく記録する。 ⑤アートカードで鑑賞の観点、印象の表現の仕方を体験する。 	

三 鑑 賞 文 を 書 こ う	6 ◎付箋紙とマッピングを使って、鑑賞文の構成を考えて書く。	①鑑賞文作成の流れを理解する。 ②美術館で使用したワークシートの情報を整理する。 ＊作品の印象を付箋紙に書き出す。 ＊作品の特徴をマッピングで整理する。 ③「印象」と「印象の根拠」となる観点の結びつけを考え、観点を二つ選ぶ。 ④「はじめ」「なか」部分を書く。	書① 作品の印象の根拠となる観点ごとの特徴を選び、鑑賞文の構成を組み立てている。(ワークシート) 言① 作品の良さや魅力を表す語句を集め文脈に応じて使い分けている。(ワークシート)
	7 ◎教材文の文章の問題点を探し、批正方法を知り、自分の文章を読み返して書く。	①教材文の問題点を話し合う。 ②分かりやすく文章を批正する。 ③分かりやすい文章にする方法を理解する。  教材文の批正の様子 ④自分の文章の読み返しを行う。 ⑤読み返し、修正を加え、続きを書き上げる。	書① 論理的な文章のために記述の問題点を考え修正しながら鑑賞文の構成を考えて書いている。(ワークシート) 言② よさや魅力を伝えるために、適切な語句や表現方法を用いている。(ワークシート)
8 本 時	◎自分の思いが伝わるか文章の読み合いをして表現を見直す。	①チェックシートの「項目」と「チェックの視点」を確認する。 ②鑑賞文をペアで交換して読み合う。 ③適切な語句や表現の工夫を考える。 ④ペアで分かりやすい表現を提案し合う。 ⑤自分の文章を再度読み返し、修正箇所を修正する。 ⑥清書する。 	書① 互いの鑑賞文を読み合い、チェックシートを活用して文章の内容や表現についてよい点や改善点を指摘している。(行動観察) 言② よさや魅力を伝えるために、適切な語句や表現を用いている。(ワークシート)
	9 ◎鑑賞文を読み合い、感想を交流する。	①お互いの文章を読み合う。 ②鑑賞文のよい点をコメントし合う。 (発展) 他の芸術作品を選び、鑑賞文を書く。 	書② 書いた文章を互いに読み合い、文章の内容や表現についてよい点を述べている。(ワークシート)

6 本時の学習【8／9時間】

(1) 目標

鑑賞文をペアで交換して読み合い、作品のよさや魅力が「鑑賞の観点」を根拠に述べられているか、適切な表現の工夫を考えて推敲する。

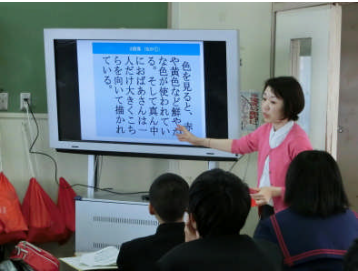
(2) 本時の評価規準（評価方法）

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
沖縄を伝える作品を選び、観点を決めて作品の良さを伝える鑑賞文を書こうとしている。(行動観察・自己評価表)	書いた文章を互いに読み合い、作品のとらえ方や表現について意見を述べたり、自分の表現の参考にしている。(行動観察・ワークシート)	作品の良さや魅力を表す語句や比喩などの表現技法を必要に応じて適切に用いている。(ワークシート)

(3) 本時の授業の工夫

ペアによる鑑賞文の読み合いの場において、チェックシートを活用して読み合いの交流を円滑に進め、鑑賞文の表現を見直し修正させる。

(4) 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 項 目 (方 法)
導 入 5 分	1 前時の振り返りをする。	○ 鑑賞文作成の流れを提示して、本時がどの位置にあるのか確認する。	関 自分の思いを伝える鑑賞文を書こうとしている。 (行動観察)
	2 今日のめあてを確認する。	○ 前時まで、鑑賞文が一通り書き終えられているか確認する。	
	自分の思いや考えが相手に伝わるか鑑賞文の読み合いをして表現を見直そう		
展 開 40 分	3 チェックシートの項目を確認する。	○ チェックシートをもとに文章の「チェックの視点」を確認する。	書 チェックの視点を理解しようとしている。 (行動観察)
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>チェックの視点</p> <p>【1段落：はじめ】</p> <p>①自分の考えとして作品の印象を書いているか。</p> <p>【2，3段落：なか】</p> <p>①印象の根拠として鑑賞の観点から述べているか。</p> <p>②内容が印象の根拠として理由づけされているか。</p> <p>③それぞれの説明は十分か。</p> <p>【4段落：まとめ】</p> <p>①なか部分の共通点について述べられているか。</p> <p>【5段落：むずび】</p> <p>①作品と自分との関わりが述べられているか。</p> <p>②沖縄の話題に触れているか。</p> <p>③作品のよさや魅力を伝える文章になっているか。</p> </div>	
		○ チェックシートにしたがって文章をチェックし合い、分かりやすい表現を提案させる。 *分かりやすい表現の書き換えが提案できない生徒は、ペアで話し合いながら考えさせる。	書 互いの鑑賞文を読み合い、チェックシートを活用して文章の内容や表



- 4 ペアで鑑賞文を交換して文章をチェックシートを基に読み合う。
- 5 自分の文章を読み返し文章の推敲をする。
- 6 もう一度、ペアで読み合いをして清書する。

- ペアのアドバイスを基に自分の文章を読み返し、文章を推敲する。
*教科書 p254「文章の推敲」参考
*推敲に困っている生徒へ支援する。
*優れた表現を全体に紹介し、自分の表現の参考にさせる。
- 推敲を終えたペアは、再度文章の読み合いをして清書に移る。
*原稿用紙の使い方を意識させて清書させる。
*教科書 p254「原稿用紙の使い方」参考。



現についてよい点や改善点を指摘している。
(行動観察・ワークシート)

言 作品の良さや魅力を表す語句や比喩などの表現技法を必要に応じて適切に用いている。
(ワークシート)

まとめ
5分

- 7 今日の振り返りとまとめをする。
- 8 次時の見通しを持つ。

- 成果や感想を自己評価表にまとめ、自己評価させる。
*自分の鑑賞文の改善点を見つけ、相手に伝わりやすい表現に修正できたか。
- 次時はグループで鑑賞文の読み合いをすることを確認し、清書を終わっていない生徒は次時まで完成できるよう支援する。
*放課後指導、清書用紙の持ち帰りなど。

関 本時のめあてが達成できたか自己の振り返りをして
(自己評価表)

(5) 板書計画

【鑑賞文作成の流れ】

- ① 作品の印象を付箋紙に書く。
- ② 作品の特徴を観点ごとにマッピングで整理する。
- ③ 印象の理由づけに必要な観点を
選ぶ、順番を決める。
- ④ 一、二段落を書く。
- ⑤ 全体学習で見直し。
自分で読み返す。
- ⑥ 三、四、五段落を書く。
- ⑦ ペアで読み合いをする。
- ⑧ アドバイスを基に見直す。
- ⑨ 清書する。
- ⑩ グループで読み合う。(交流)

鑑賞した作品

作品

作品

作品

作品

鑑賞文を書く⑧

めあて 自分の思いや考えが相手に伝わるか
鑑賞文の読み合いをして表現を見直そう。

師走十一日(木)

段落	チェックの視点	段落	構成	内容
1	自分の考えとして作品の印象を書いているか？ *特徴でなく気持ちになっているか？	第1段落	はじめ	作品からうける印象
2	印象の根拠として鑑賞の観点から二つを述べているか？ *二つが混ざったりしていないか？	第2段落	なか	印象の根拠①
3	内容が印象の根拠として理由になっているか？ *印象の説明にふさわしいか？ それぞれの説明が十分か (よくわかるか？言葉が足りていますか？)	第3段落		印象の根拠②
4	「なか①」と「なか②」の共通点がまとめられているか？	第4段落	まとめ	根拠①と根拠②に共通すること
5	作品と自分との関わりが述べられているか？ 沖繩の話題に触れていますか？ 作品のよさや魅力を伝える文章になっているか？	第5段落	むすび	作品と自分の関わり 自分の意見・主張

VIII 研究の考察

1 作業仮説(1)の検証

付箋紙やマッピングを活用して書く材料を整理し，教材文の批正を全体学習して自己の文章を読み返すことが，鑑賞文の構成を意識して書くことにつながるであろう。

(1) 付箋紙とマッピングの活用について

① 手立て

付箋紙とマッピングを活用し，作品を見て受けた印象（自分の意見）と印象の根拠となる作品の特徴（事実）を分けて鑑賞文の材料を整理させ，構成を意識させる。

② 結果

第1時では，鑑賞文の材料を整理する方法として付箋紙とマッピングの手法の説明を行った。鑑賞文を書く作品とは別の作品を題材として付箋紙とマッピングで情報を整理する練習を行った。まず，作品を見て受けた印象を単語単位で付箋紙に記述する。次に作品の特徴を鑑賞の観点ごとにマッピングを使って整理した。

第3～5時の美術館鑑賞では，生徒それぞれで鑑賞文の題材とする作品を決め，第1時の手法でワークシートをまとめた（図4，5）。表9は，生徒ワークシートの分析である。

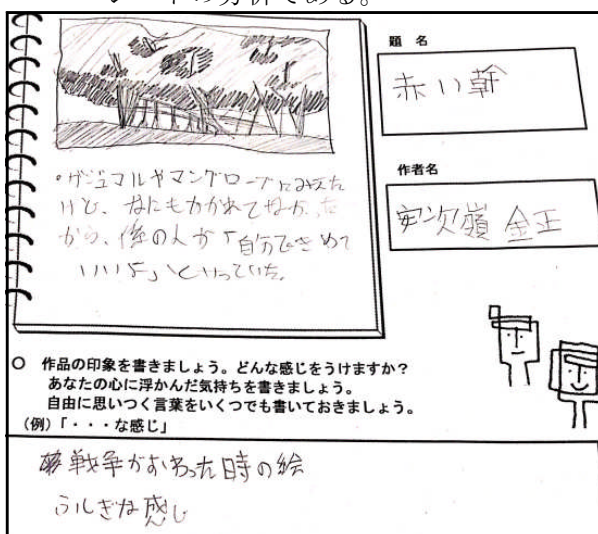


図4-1 印象をまとめたワークシート

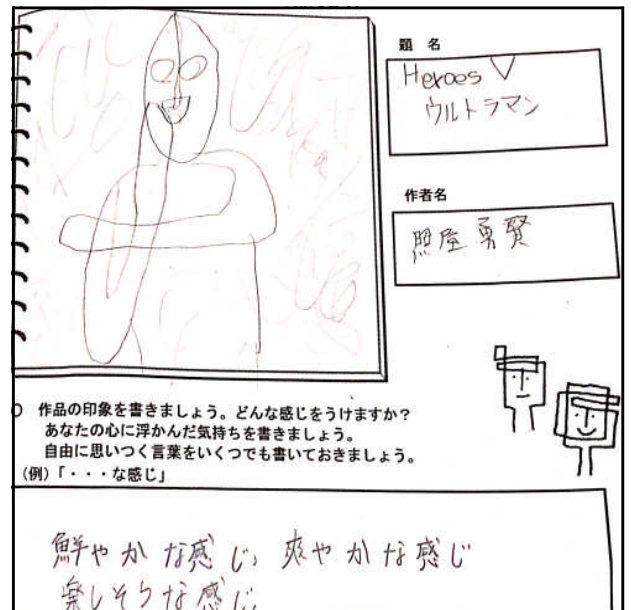


図4-2 印象をまとめたワークシート

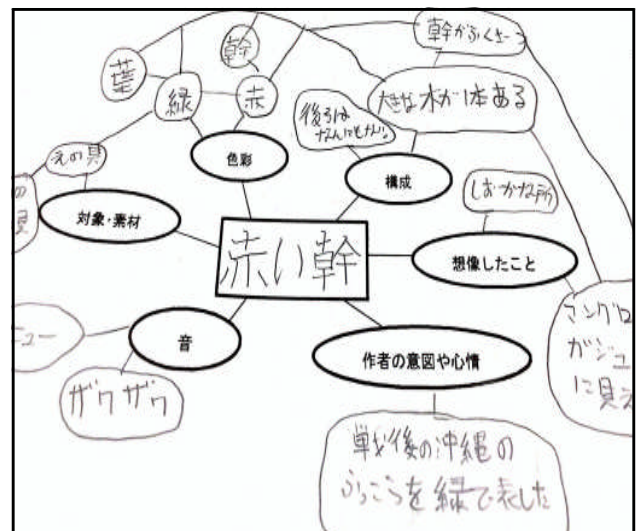


図5-1 マッピング（作品の特徴の整理）

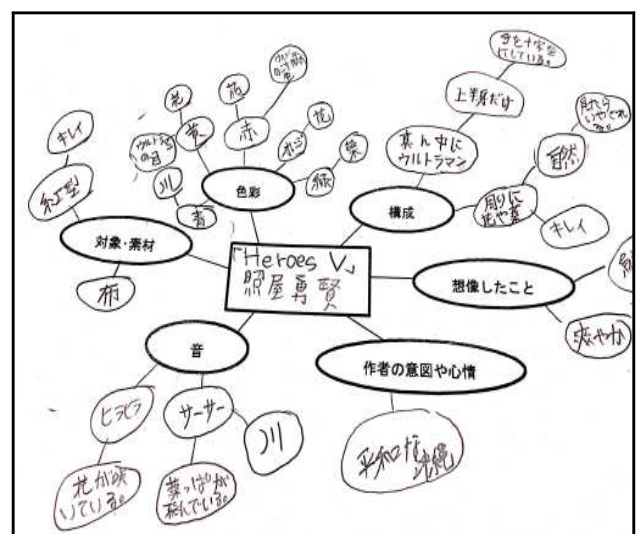


図5-2 マッピング（作品の特徴の整理）

表9 美術館鑑賞時のワークシート分析

【付箋紙に作品の印象を書く】		
A	印象を表す適切な表現を複数用いて書けた。	82%
B	印象を表す表現で書けた。	12%
C	印象を表す表現として不適切であった。	6%
【マッピングで作品の特徴を整理する】		
A	六つ全ての観点を使って特徴の整理ができた。	47%
B	半分以上の観点を使って特徴の整理ができた。	50%
C	一つの観点で特徴の整理ができた。	3%
【印象と作品の特徴を結びつける】		
A	マッピングで整理した観点の中から印象の理由となる（関連のある）観点を選び印をつけた。	55%
B	マッピングで整理した観点の中から選んで印づけはしていないが、自分の印象の理由となる観点が記入されている。	36%
C	マッピングで整理した観点の中から選んでいない。もしくは結びつけを考えていない。	9%

対象人数：66名

「付箋紙に作品の印象を書く」は94%の生徒が、「マッピングでの作品の特徴の整理」は97%が達成できている。

「印象と作品の特徴の結びつけ」は、55%が達成できた。印がなく選択の形跡は見られないが、関連のある観点がマッピングに整理されている生徒は36%いた。

生徒が書き上げた鑑賞文を、事前の鑑賞文と比較する。図6によると、意見とその根拠を示して記述しているものは事前では14%であったが事後には98%へと大幅に増加している。根拠を示していないものは83%から0%へと減少した。

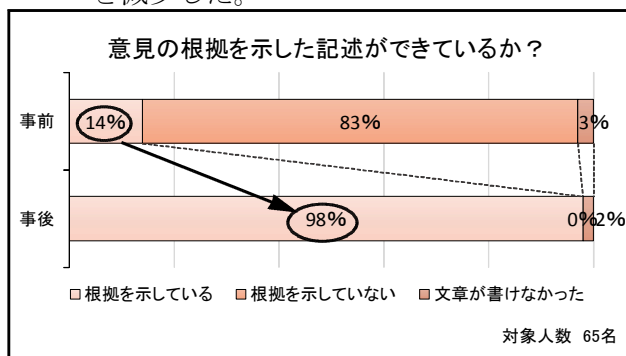


図6 授業前後の鑑賞文の比較

また、生徒意識調査（図7）では、「文章の構成を意識して書くことができますか」の質問に「書ける」と答えた割合が大幅に増加し、「書けない」の回答が0%となった。「普段、書く時に構成を意識していますか」の質問では、構成を意識するようになった生徒の割合に増加がみられた。

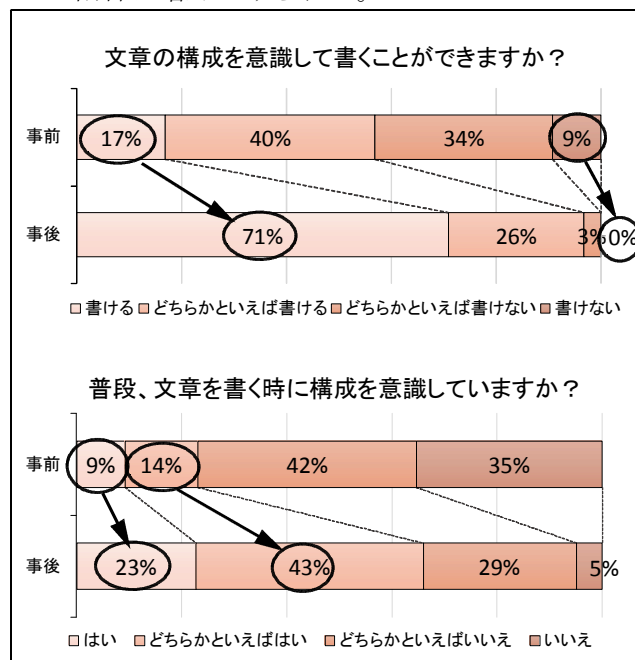


図7 「構成」に関する生徒意識調査

③ 考察

生徒の書き上げた鑑賞文は98%の文章が意見（印象）と根拠（作品の特徴）がはっきりと区別されていた（図6）。また意識調査では、文章の構成を意識した記述ができるという回答とともに、文章を書く際に構成を意識するようになった生徒が増えていることがわかる。

このことから、付箋紙とマッピングを用い意見とその根拠を物理的に分けさせる方法が、意見と根拠を分け鑑賞文の構成を意識させることに効果的であったといえる。

(2) 教材文批評の全体学習について

① 手立て

教材文を使って批評方法を全体学習し文章構成の確認と、自己の文章の読み返しをさせる。

② 結果

本検証の第6時に教材文を使って批評方法を全体学習を行った。その後、自己の文章を

読み返す場を設定し、各自で自分の文章を批評しながら後半を書き進めた。次はグループでの批評の様子(図8)と教材文のワークシート(図9)である。



図8 教材文をグループで批評する様子

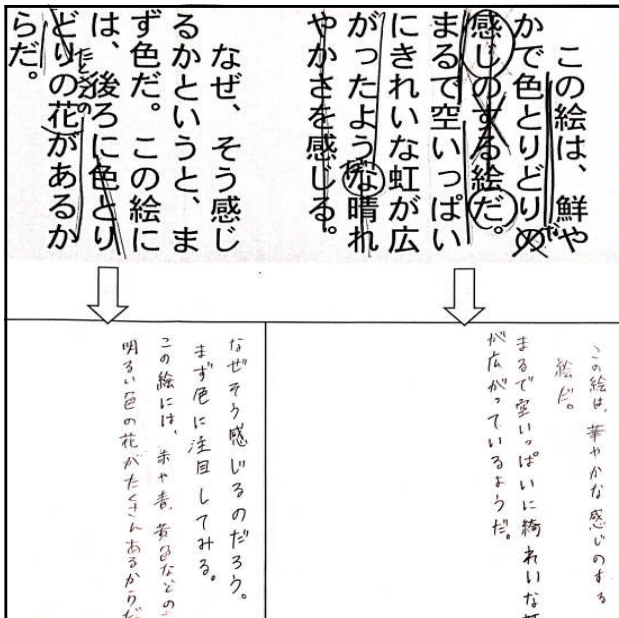


図9 教材文批評のワークシート

教材文は、前時に生徒が書いた文章の中から記述に問題のあるもの数点を組み合わせて作成した。生徒はグループで話し合いを通して文章を批評した。批評の目的は、文章の構成が正しいか見直すことであり、話し合いの視点は、「段落ごとの条件に沿った文章になっているか」「印象の根拠として適切な観点を挙げているか」とした。

表10は教材文と生徒が批評した後の文章である。話し合いの視点以外にも「一文を短くする」「繰り返し使われていた語句の言い換えをする」「より具体的な言葉を使用する」などの書き換えを行っている。

表10 グループで批評した教材文

(教材文)	(生徒の批評後)
<p>この絵は、鮮やかで色とりどりの感じのする絵だ。まるで空いっぱい綺麗な虹が広がったかのような晴れやかさを感じる。</p> <p>なぜそう感じるのかというと、まず色だ。この絵には、後ろに色とりどりの花があるからだ。</p> <p>次は、音だ。沖縄ということからカチャーシーの音が感じる。</p>	<p>この絵は華やかな感じのする絵だ。まるで空いっぱい綺麗な虹が広がっているようだ。</p> <p><u>なぜそう感じるのだろうか。まず色に注目してみる。この絵には、赤や青、黄色などの明るい色の花がたくさんあるからだ。</u></p> <p>次に音に注目する。この絵は沖縄の伝統工芸である紅型を使っていて、沖縄らしさを感じさせる。そこから、民謡に乗せてカチャーシーを踊っている人たちの姿が想像される。</p>

生徒意識調査(図10)を見ると、「自分の文章を読み返して修正できますか」の質問に対し、「できる」「どちらかといえばできる」という肯定的な回答がともに増加している。また、「普段、書いた文章を読み返して修正していますか」という質問では「書いた文章を読み返して修正している」という肯定的回答が微増している。

授業後の生徒感想(表11)には、「批評方法をグループで話し合う場がおもしろい」という感想や、「批評の方法がわかり、自己の文章を読み返すことができた」という達成感、「これからは読み返そう」という意欲もみられた。

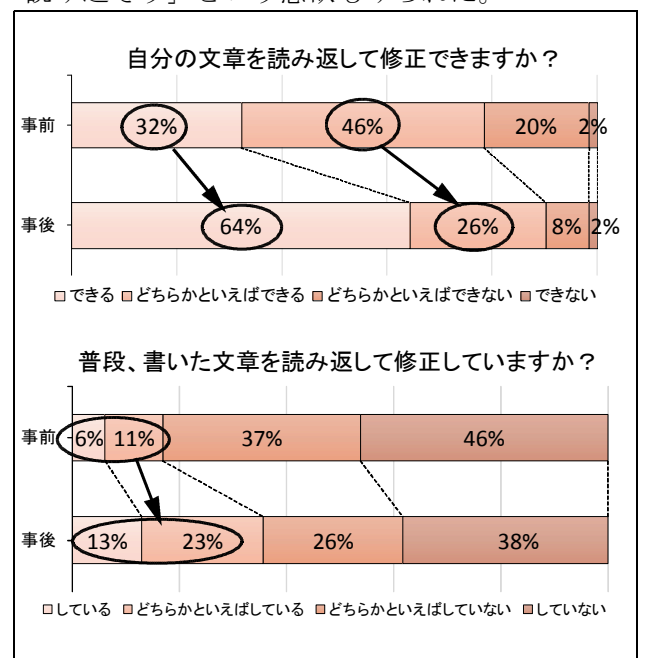


図10 「修正」に関する生徒意識調査

表11 第5時授業後の生徒感想

- ・自分の文章を振り返って読んで、間違いのあるところを見つけ自分なりにいい文を書くことができた。
- ・自分の文章を読み返して書くことが少し難しかったけど、自分じゃなく他の人の文を読み返すと思えばできた。
- ・グループで相談して文章を批正するのがおもしろかった。批正の方法がわかった。
- ・今までは自分の文章を読み返して修正しなかったけれど、読み返すと直すところが見つかって、これからは読み返して修正しようと思った。

③ 考察

グループで批正した教材文を見ると、生徒の文章批正能力は充分備わっており、鑑賞文の構成を意識した批正ができていることがわかる。また授業後の感想（表11）や意識調査（図10）からは、教材文を活用して批正方法をグループで話し合うことの有効性が見て取れた。

このことから、教材文を批正する活動は、文章構成を意識した作文をさせることにつながったといえる。

また、グループの批正後は自己の文章を読み返し、黙々と書き進める姿が多く見られたことから教材文には批正方法の理解を促すだけでなく、書き方のモデルとしての効果もあったことがわかる。

2 作業仮説(2)の検証

書き上げた鑑賞文をチェックシートをもとに生徒相互で読み合うことで、文章の修正や推敲ができるであろう。

(1) チェックシートについて

① 手立て

チェックシート（表8）を活用してチェックの視点をもとにペアで読み合って改善点を アドバイスし合い、最終的な推敲をさせた。

② 結果

チェックの視点を確認後、ペアで鑑賞文を交換し読み合いをした。生徒は文章とチェックシートと照らし合わせながら読み進め、項目一つ一つを丁寧にチェックしていた。コメント欄は、はじめ、なか、ま

め、むすびの4つの部分に分け、それぞれの部分で良い点や改善のアドバイスを記入させた。



図11 チェックシートを活用して読み合う



図12 読み合い後にアドバイスを交換

チェックシートのコメント欄に書かれた生徒の記述（表12）を見ると、チェックの視点にしたがい、良い点や改善が必要な点について具体的な言葉で評価やアドバイスが書かれている。改善例を考え記述しているものもあった。チェック後はそれぞれのアドバイスを基に文章をどう書き直すかペアで話し合う姿も見られた。

表12 生徒のチェックシートの記述

【はじめ】部分

- ・自分が絵を見て感じた「力強い」という思いが書かれていてとてもいいと思う。
- ・赤い幹の部分が血のように見えるという比喻表現はとてもいい。
- ・ここで「なぜなら…」と理由を述べるのではなく、ここでは自分の思ったことだけを書いた方がいい。

【なか】部分

- ・構成、色彩について細かく書かれていて絵を見ていない人でも想像できそうでとてもいい。
- ・二段落は、最初は構成の話なのに、途中で色彩のこ

とを言っている。

- 最後の「暗くて寒そう～」のところはもう少し言葉を足して説明がほしい。

【まとめ】部分

- ちゃんと一段落の内容と共通していて読んでいて納得できた。
- 根拠で述べた二つの共通点を見つけ、何に似ているかが書かれていた。
- 色についても触れたほうが説得力があると思う。

【むずび】部分

- 沖縄について触れられていない。ひいおばあちゃんは沖縄出身？沖縄に住んでいる？などにつなげたらどうか。
- 自分との関わりがとてもおもしろかった。
- 最後がちゃんと沖縄の良さにつながっていた。すごくいい文章だと思う。
- 「よみがえらせる」を「まだ立ち上がれる」に書き換えたらどうでしょう。

生徒の意識調査結果（図13）では、「友達の文章のよい所に気づくこと」について、肯定的回答の総数は微増だが、「できる」の回答が大幅に増えている。「友達の文章に対して改善点を指摘して修正すること」では、「できる」の回答が大きく増加している。

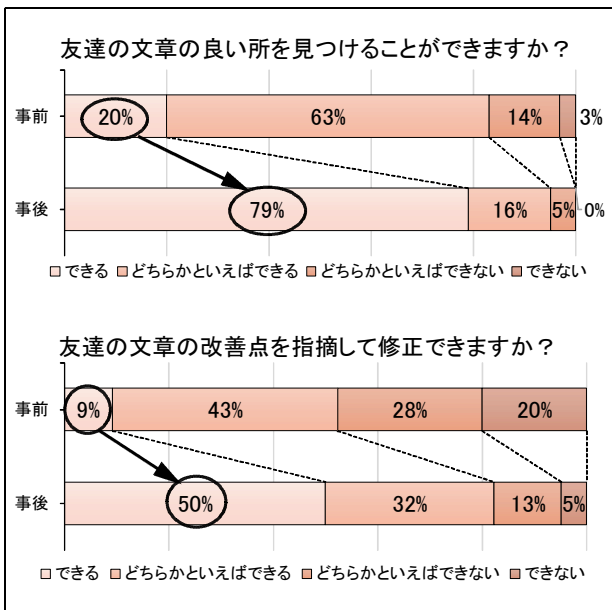


図13 「修正やアドバイス」に関する生徒意識調査

生徒Aを例に、読み合い前後の文章（表13）を比較する。読み合い後に主語が不明確であることと、作品の特徴の説明不足を指摘されている。その後ペアのアドバイスを受けて、語数や文量が増加し、文章がより丁寧で詳しい説明に書き換えられている。

表13 生徒A 読み合い前後の文章の比較

【読み合い前の文章】

この絵は力強くて少し悲しそうな感じのする絵だ。まるで、何かに対して怒りを感じているようだ。なぜそう感じるのだろうか。まず、絵の中心にあるおばあちゃんの表情だ。（略）

↓

ペアで読み合い

【ペアから受け取ったコメント】

【はじめ】 怒りを感じているのが誰かがはっきりしない。どんな絵か説明したらもっといい。

【なか】 どんな表情なのか書くといい。

↓

【読み合い後に修正した文章】

この絵は、中心に沖縄のおばあちゃんが描かれていて、暗く、力強くて、少し悲しそうな感じのする絵だ。おばあちゃんはまるで何かに対する強い怒りを表しているようだ。なぜそう感じるのかというと、まず絵の中心にあるおばあちゃんの表情だ。おばあちゃんが中心に描かれているが、おばあちゃんは真正面を見ているのではなく、視線を下に向けている。そこが少し悲しさを生んでいるようにみえる。（略）

また、授業後の生徒感想（表14）ではペアにチェックしてもらうことで改善点に気づかされ、自分の文章が良くなったという意見があった。

表14 第6時授業後の生徒感想

- 隣の人にアドバイスをもらって文章が前より良くなったと思う。
- 読み合いをしてお互いの文章の見直しができた。
- 鑑賞文の直すところを見つけてもらえて良かったです。直して清書まで進むことができた。
- チェックシートを使ってペアでアドバイスを言い合うことができた。

③ 考察

チェックシートの記述内容（表12）を見ると生徒はアドバイスの視点を明確にして友達の文章を読んでいることがわかる。これまでの類似した実践では、アドバイスが単なる感想の交換になってしまうことが多かった。チェックの視

点を細かく記載したことが、的確なアドバイスを生徒間で行うことにつながった。

生徒意識調査（図13）からは、「友達の文章の良い点を認め、改善点に気づきアドバイスができた」という結果が表れた。これまで他へのアドバイスに消極的であった生徒も、ペアの文章に指摘やアドバイスができたことで達成感を感じている。

これらのことから、チェックシートを基に生徒間で読み合いを行うことは、文章の修正や推敲に効果があることがわかる。

また、チェックシートが話し合いのきっかけになっているペアも見られた。普段、会話を交わすことのない間柄であってもチェックシートを介することで、関係に変化が見られた。座席による生徒の人間関係に左右されず話し合いを成立させるツールとしての可能性も感じられた。

3 本研究を通して

(1) 鑑賞文の論理性について

鑑賞文とは「自分が感じ取った作品のよさや魅力をどのように良いのか根拠を明らかにして伝える文章」である。また、論理的な文章とは「短く明快な文章であり、構成の原則を持つ文章」であり、自分の考えを明確にわかりやすく伝えるために根拠を取り入れ、言葉のつながりを意識して相手を納得させる筋道をもたせなければならない。

そこで、ここでは論理的な鑑賞文の条件を以下（表15）の3点として、生徒の鑑賞文の論理性を考察した。

表15 論理的な鑑賞文の条件と達成率

①	作品の良さや魅力を鑑賞の観点から根拠にして述べている。	98%
②	論理の展開に必要な言葉（接続詞）のつながりを意識して使用している。	29%
③	文章が論理的構造を持ち、相手を納得させる筋道が整っている。	55%

項目①に関しては、ほぼすべての鑑賞文において達成された。項目②の接続詞のつながりを意識した記述がされたものは全体の29%にとどまった。生徒作品は接続詞の数が少な

く論の展開に必要な接続詞が欠如しているものが見られた。それでも項目③55%の鑑賞文は基本的には論理的構造を持ち、相手を納得させる筋道が整っていると判断できた。

このことから接続詞が少なく、記述や表現の未熟さがあっても一定の型を持つことで意見や考えを伝える文章になることがわかる。論理的文章を書くための基本的な論理構成の型の重要性が確認できる。

(2) 鑑賞文の内容について

今回、鑑賞文の構成の型とともに段落ごとの課題条件を提示した。生徒の鑑賞文の内容（表16）から課題条件の達成率をみる。項目①98%は鑑賞の観点を根拠に自分の意見を述べる文章となっており、項目②根拠の妥当性が認められるものは88%であった。この二点においては成果を高く評価できる。

しかし、「項目③根拠二つの共通点をまとめる」、「項目④自分との関わりを入れる」、「項目⑤沖縄との関連を持たせる」の三点に課題が残った。項目⑥鑑賞文として作品の良さ（魅力）を伝える文章であったと判断されたものは54%である。作品と自分や沖縄を関連させたいという教師側の思いが課題を複雑化させてしまった感がある。

表16 授業後の鑑賞文の内容分析

	分析の視点	達成率
①	印象とその根拠を区別している	98%
②	印象の理由付けとして適切な鑑賞の観点を根拠にしている（妥当性がある）	88%
③	二つの根拠の共通点をまとめている	66%
④	自分との関わりを入れている	58%
⑤	沖縄の話題に触れている	62%
⑥	作品の良さ（魅力）を伝えている	54%

生徒Bの文章の比較（表17, 18）を行った。他教科（美術科）の課題として出された鑑賞ワークシート、事前アンケート時の鑑賞文、本検証で書いた鑑賞文の3点である。接続助詞を多用して一文が長い傾向にあった文章が短く変化している。段落の設定や、接続詞を

使用して根拠を観点ごとに列挙したことで、読みやすく分かりやすい文章となっている。

表17 生徒B文章の比較

	他教科(美術)の課題	事前アンケート時の鑑賞文	本時で書いた鑑賞文
意見と根拠の区別	区別されている	区別されている	区別されている
根拠の記述の仕方	一つの内容を二通りで記述(意見に続けて一文で記述, 理由は, と記述)	意見に続けて複数の根拠を二文で記述	意見とは別に接続詞を使って観点別ごと(一つの観点につき2~4)に列挙
言葉の接続	接続詞を使用していない	接続助詞でつないでいる	接続詞の使用
根拠数	1	4	6
段落の数	1	1	5
字数/文	28.7	45.0	26.3

表18 生徒B文章(記述)の変化

【美術科の課題 鑑賞ワークシート】
 山下清さんは、幼少期に貼り絵をたくさんやっていた事がわかった。貼り絵は細かい所まででいねいにやってすごいと思った。私は「友達」という絵が気に入った。山下さんの絵を見て思ったことは、とても細かい「点」を使って影を表現したりしていとてもすごかった。私は、エッフェル塔の作品が気に入った。理由は、とても細かい所まで本当にこだわって書いているととても感じたからだ。山下清さんの作品をもっと見てみたいと思った。



【事前アンケートでの鑑賞文】
 貼り絵でこんなに細かい所までできていすごいと思うし、飛行機が普通の絵で描いたと思うくらいいすごかったです。木や畑なども、とてもでいねいで、人の表情もわかったのですごいと思いました。



【本時の鑑賞文】
 「生命の力」
 この絵は、暗くて寂しい感じがする。だが、どこか元気をもらえる絵だ。
 なぜそう感じさせるのだろう。まず、絵の構成だ。ボロボロになった石のすき間に一匹だけヤドカリがいる。そして、奥の方には太陽が昇ってきているような光が描かれている。一匹のヤドカリからは寂しさ、昇

ってくる太陽からは元気をを感じる。
 次に色彩に注目する。この絵は全体的に黒や灰色が多く使われている。草も緑ではなく、焦げて灰色になったかのようにとても悲しい感じがする。だが、その中に一匹の赤いヤドカリがぼつんとして、生命の力を感じさせる。また、奥の方から昇ってくる光はとても明るく見える。
 この絵は、周りの草や石などが暗いことからヤドカリの赤や朝日の光が強調され、元気をもらえる感じがするのだろう。
 私はこの絵はきっと戦後の沖縄を表した絵だと思う。沖縄で昔起こった戦争では、この絵に描かれているようにたくさんの物や人の命が奪われてしまった。だが、今私たちが生きているのは、この時代を生き抜き、命をつなげてくれたご先祖様のおかげだ。だから、今の沖縄には「命どう宝」ということを大切にする心がある。

授業後の生徒の感想(表19)には、伝える難しさと書けた達成感、書き方がわかれば書けるという自信が表れている。

表19 最終時授業後の生徒感想

- ・見て感じたこと、思ったことを分かりやすく伝えるのは難しかった。でも書き方がわかった気がする。
- ・時間をかけて一つの文章を書くことでけっこういい文章がかけた気がする。次に書く機会があれば、今回のポイントをおさえて書くようにします。
- ・書けたことが嬉しかった。型とか構成とかどうやって書くのかがわかったら書けることもわかった。
- ・だいたいどんなことを書けばいいのかがわかったから、今後は大丈夫だと思う。

(3) 美術館での鑑賞体験について

今回は沖縄県立美術館の事業「美術館へ行こう2014」と授業の関連を図った。事業に参加することで鑑賞文を書く前段階として鑑賞指導のための三段階を設定できた。実際の鑑賞は県立美術館で鑑賞ボランティアとの対話を通した鑑賞体験を行った。対話によって生徒は論理的思考をもって絵を鑑賞できた。生徒の感想(表20)からもその効果がうかがえる。

表20 美術館鑑賞後の生徒の感想

- ・絵をじっくり見ることができていい体験だった。
- ・学芸員さんのお陰で、どうやったらどんな風に見えるのかがわかった。
- ・美術館で学芸員さんと話していて、「感じる」とはどういうことかわかった気がする。

(4) 交流について

今回、修正目的の意見交流を指導過程に2回位置づけた(表21)。文章を完成させる途中で自分以外の人の目が入ることで文章はより洗練された。また、文章を読み合い他の人の意見に触れることで、違いを知る楽しさや人に伝える喜びを感じたことが生徒の感想(表22)からわかる。

表21 意見交流の過程

1. 個人の思考	各自が意見と根拠を整理して書き出す。
2. グループの交流・思考	グループで教材文の修正方法を話し合い修正する。
3. 個人の思考	修正方法に照らし合わせ自己の文章を読み返す。
4. ペアの交流・思考	チェックシートを活用し読み合い、アドバイスし合う。
5. 個人の思考	自己の文章を最終推敲する。
6. グループの交流	完成した鑑賞文を読み合い、多様なものの見方に触れる。

表22 授業後の生徒感想

<ul style="list-style-type: none"> ・友達の文章のよい所を見つけて、自分が感じるだけでなく、<u>友達の感じ方を聞いて、絵の感じ方を膨らませることができた。楽しかった。</u> ・みんなの鑑賞文を読んで、<u>例えばおもしろかったり、感じ方が様々で人によって見方や考え方がまったく違うことがわかりすごいと思った。</u> ・読み合いをして、相手の良いところも見つけることができたし、<u>みんなの感じ方が聞けて話が弾んで楽しかった。</u>
--

IX 研究の成果と課題

1 成果

(1) 付箋紙とマッピングの活用の有効性

意見と事実を分ける手立てとして用いたことで意見と事実の混同が無くなった。また鑑賞文作成のための材料整理としての役割も果たし、作文がスムーズに進んだ。

(2) チェックシートの有効性

チェックの視点を細かく設定したことで生徒相互で修正目的の読み合いが成立した。生徒はアドバイスを基に推敲したことで、文章がより論理的になった。

(3) 体験と知識による深まり

美術館鑑賞で本物の作品に触れ、専門的知識を持つ鑑賞ボランティアとの対話を通じた鑑賞活動を取り入れたことで、論理的思考をもって作品を鑑賞することができた。その結果、ほとんどの生徒が作品に対する思いを表現できた。

2 課題

(1) 構成の型と課題条件の弊害

型の提示により、生徒作品は一定の論理性を持ったが、書き上げた生徒の文章の論の展開が似通ったものになった。今後は、生徒が論の展開の多様性を学び、論の型を各自で選択し作文する指導の工夫を考えたい。

また、課題条件の細かさが記述に混乱を生じさせた。条件をシンプルに設定する必要もある。

(2) 接続詞指導の弱さ

言葉や文章、段落のつながりを考えて接続詞を使って文を組み立てていく指導が必要である。

(3) 表現や修辞についての学習

構成や型に重点を置いたため、表現や修辞についての指導が至らなかった。教科の特性として表現を深める指導にも挑戦したい。

おわりに

書くことに対する生徒の困り感と、そのような生徒に十分に伝えられていない自らの実践の不充足さを常日頃から感じ、今回の研究のテーマとしました。相手に伝わるようにわかりやすく書くことは大人であっても難しいことです。しかし、社会で生きていく上で欠かせない言語能力の一つであり、社会からの要請は今後益々大きくなることが予想されます。

言語能力は短期間の指導で身につくものではなく、本研究における成果は真の成果とは呼べないのかもしれませんが。しかし今回、授業後の生徒の声「書き方がわかったことが嬉しい」「今後は大

丈夫だ（書ける）と思う」が私にとって大きな成果だと感じています。国語科の授業が言語技術の習得の場として大きな意味を持ち、生徒一人一人に力をつけるものであるべく、今後も日々の実践にあたりたいと思います。

また、今回の研究において鑑賞文の題材となる美術作品として本物の郷土の作品に触れたことも大きな成果でした。沖縄県立美術館の収蔵する美術作品は、私たちの住む沖縄の歴史であり、財産といえます。それらの作品に触れ、学習の題材とすることで生徒の鑑賞文は郷土沖縄や、沖縄の歴史、自分や家族の生き方に触れた深みのある文章となりました。「美術館へ行こう2014」に招待していただき、鑑賞の場を与えてくださった沖縄県立美術館館長の安里進様、多大なご協力をくださ

いました学芸員の仲村保様、鑑賞ボランティアとして参加して下さったすべての方々へ感謝の気持ちでいっぱいです。

また、研修期間中、ご指導いただきました仲西起實所長、山里崇係長、日高聡指導主事をはじめとする研究所の職員の皆様、検討会や報告会等でご指導ご助言をいただきました浦添市教育委員会の先生方へ深く感謝申し上げます。

最後に、思う存分研究に打ち込める環境を与えてくださった仲西中学校の渡口政春校長、本研究の指導助言者として、最後まで細やかな指導をくださいました金城孝子教頭、協力して下さった仲西中学校職員の皆様、そして半年間研究をともに励んだ研究員のお二人の先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

【主な参考・引用文献】

- | | | | |
|--------------------------------------|---------------------|--------|-------|
| ・授業づくりの教科書：国語科授業の教科書 | 野口芳宏 | さくら社 | 2013年 |
| ・「なぜ」とひたすら尋ねる論理力こそ一批評でも批判でもなく、問うこと一 | 難波広孝 | | |
| 言語技術教育第20号「この言語技術」で思考力・表現力が高まる | 日本言語技術教育学会編 | 明治図書 | 2011年 |
| ・中学校国語科新授業モデル書くこと編 | 河野庸介他 | 明治図書 | 2011年 |
| ・論理的思考力・表現力を「構成」の指導で育てる | 中村孝一 | | |
| 言語技術教育第20号「この言語技術」で思考力・表現力が高まる | 日本言語技術教育学会編 | 明治図書 | 2011年 |
| ・市毛勝雄著作集第5巻：作文の授業改革論 | 市毛勝雄 | 明治図書 | 1998年 |
| ・21世紀型授業づくり47：国語力を育てる言語技術教育入門 | 市毛勝雄 | 明治図書 | 2002年 |
| ・単元構想表でつくる中学校新国語授業 START BOOK 第1学年 | 富山哲也他 | 明治図書 | 2011年 |
| ・平成24年度、版観点別学習別学習状況の評価規準と判定基準〔中学校国語〕 | 金子守編 | 図書文化社 | 2011年 |
| ・国語科作文教育 | 興水実 | 明治図書 | 1975年 |
| ・「評価→指導」のサイクルを指導過程にできるだけ多く組み込もう | 萩中奈緒美 | | |
| 評価と指導 第60巻1月号 | 日本図書文化協会 | | 2014年 |
| ・「書くこと」における言語力育成の考え方 | 佐渡島紗織 | | |
| 「言語力」を育てる授業づくり・中学校 | 梶田叡一編 | 図書文化社 | 2009年 |
| ・中学校学習指導要領解説国語編 | 文部科学省 | 東洋館出版社 | 2008年 |
| ・評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料, 中学校国語 | 国立教育政策研究所教育課程研究センター | 教育出版 | 2011年 |